

2023年度多職種役割分担推進計画(2022年度の計画振り返りを含む)

計画番号	役割分担業務内容	関連部署	計画担当者	目標達成年次	2022年度の計画	2022年度の振り返り	2023年度の計画
1	初診時の予診の実施	医局 看護部 視能訓練科	加藤部長	実施済 (2023年度も継続)	アイセンター以外の診療科では看護師が、アイセンターでは視能訓練士が継続して実施する。救急外来でAI問診の導入を検討する。	初診時の予診は継続して実施できた。内科で2022年11月からUbieのAI問診を導入した。利用件数は月200件程度である。	引き続き初診時の予診を実施する。救急外来でのAI問診の救急外来で導入が可能かをさらに検討する。
2	静脈採血等の実施	医局 看護部 中央検査科	加藤部長	実施済 (2023年度も継続)	外来患者に対しては、点滴や静脈注射がない場合、臨床検査技師が継続して実施する。入院患者に対しては看護師が継続して実施する。	継続して実施できた。	引き続き外来患者に対しては、点滴や静脈注射がない場合、臨床検査技師が継続して実施する。入院患者に対しては看護師が継続して実施する。
3	入院の説明の実施	医局 看護部 事務職員	加藤部長	実施済 (2023年度も継続)	アイセンターでは外来看護師が、アイセンター以外の診療科では患者支援センターのスタッフが入院の説明を継続して実施する。入院時オリエンテーションは、病棟看護師と看護補助者が内容を分担して継続して実施する。夕方外来での入院説明の需要件数を改めて確認し、同時間帯での対応が実現可能かどうかを検討する。	継続して実施できた。夕方外来での入院説明の需要は数件程度で、それほど多くなかった。入院説明の動画を新しく作成し、耳鼻咽喉科と整形外科で利用を開始した。患者支援センターでアイセンターの入院説明も行えるようスタッフを増員した。	引き続きアイセンターでは外来看護師が、アイセンター以外の診療科では患者支援センターのスタッフが入院の説明を継続して実施する。入院時オリエンテーションは、病棟看護師と看護補助者が内容を分担して継続して実施する。
4	検査手順の説明の実施	医局 看護部 中央検査科 放射線科 視能訓練科 事務職員	加藤部長	実施済 (2023年度も継続)	医師や看護師が検査手順の説明を行っているものを検査ごとに見直し、整理して計画を立てる。	消化器内科で大腸内視鏡検査の説明動画を作成している。	引き続き医師や看護師が検査手順の説明を行っているものを検査ごとに見直し、整理して計画を立てる。必要に応じて各種検査の説明動画を新たに作成する。
5	服薬指導	医局 薬剤科	後藤科長	実施済 (2023年度も継続)	外来患者と入院患者に対して、薬剤師が実施する体制を継続する。退院後に他の調剤薬局や看護師とスムーズに連携できるよう、作成した退院時服薬指導のフォーマットを活用する。	継続して実施できた。入院患者の指導件数が若干減少したことに伴い、退院時服薬指導のフォーマットを活用する機会は少なかった。	引き続き外来患者と入院患者に対して、薬剤師が実施する体制を継続する。

2023年度多職種役割分担推進計画(2022年度の計画振り返りを含む)

計画番号	役割分担業務内容	関連部署	計画担当者	目標達成年次	2022年度の計画	2022年度の振り返り	2023年度の計画
6	感染リスクの高い患者に対する中心静脈栄養の無菌調製	医局 看護部 薬剤科	後藤科長	実施済 (2023年度も継続)	医師から依頼を受けた患者に対しての実施を継続する。 在宅患者のTPNの無菌調製の一部を院外処方箋で対応できるよう、近隣の調剤薬局と打ち合わせを適宜行う。	医師からの依頼に対しては継続して実施できた。近隣で新たにクリーンベンチを設置する調剤薬局があり、患者側の選択肢が増えた。	引き続き医師から依頼を受けた患者に対しての実施を継続する。 在宅患者のTPNの無菌調製の一部を院外処方箋で対応できるよう、近隣の調剤薬局と打ち合わせを適宜行う。
7	腰椎圧迫骨折患者の入院期間短縮	医局 看護部 リハビリ科 食膳栄養科 MSW	ケアステーション会合	2024年	入院早期より多職種が連携して対応することで、患者に最もよいプランで退院・転院支援が行える状態を目指す。月1回、医師・看護師・リハビリ・管理栄養士・MSWが集まり、情報交換からそれぞれの職種からみた課題や提案を抽出し集約する。	腰椎圧迫骨折患者の平均在院日数は、取り組み前が30日、取り組み後が34日であった。まだ取り組み後に大きな成果が見られないものの、自宅退院については、取り組み前の27日から25日へと短縮された。	引き続き入院早期より多職種が連携して対応することで、患者に最もよいプランで退院・転院支援が行える状態を目指す。腰椎圧迫骨折のクリニカルパスの導入を検討する。
8	院外処方箋FAXの設置場所の変更と増設	薬剤科 事務職員	後藤科長	2024年	薬局窓口で説明を受けている患者のプライバシーが守られていない課題について、関連する職種で改善策を検討する。	発熱外来の処方箋を送るため、小児科にFAXを増設した。従来のFAXの設置場所の変更や増設を検討したが、対応は困難であった。FAXの代替案として、処方箋を送信できるスマートフォンアプリの案内チラシを作成し、職員と患者に配布した。	引き続き薬局窓口で説明を受けている患者のプライバシーが守られていない課題について、関連する職種で改善策を検討する。 患者に対しては処方箋を送信できるスマートフォンアプリの案内を継続する。
9	ロービジョン入院患者に対する退院後の支援	視能訓練科 看護部	楯科長	2023年	看護師と視能訓練士が連携し、ロービジョンケアや点眼管理が必要な入院患者に対して、退院後外来でロービジョンケアを実施できる体制を整備する。ロービジョンケアの実施状況を半期ごとに評価する。	ORTがケアの実践ができた事例は年間13例 ロービジョンケアの情報提供 7例 眼鏡・電子ルーペ処方に繋がった 2例 外来看護師と連携し点眼管理に繋がった 4例	(2022年度で終了)
10	外来看護師による外来患者に対する聴力検査等の実施	リハビリ科 看護部	大川主任	2024年	外来患者に対する聴力検査を、言語聴覚士不在時に外来看護師で実施できる体制を継続する。 耳鼻咽喉科外来看護師が行える検査を段階的に増やしていく。	耳鼻科外来看護師には簡易聴力検査の実施依頼に加え、ティンパノメトリー検査の指導、練習の機会を設けた。耳鼻咽喉科領域について共通理解ができたことで職種間連携が強まり、看護師の知識や技術の向上につながった。	(2022年度で終了)